

カルメル 霊性センターニュース



宇治カルメル会修道院

2018年6月

343号

目次

目次	1
心の泉	3
カルメル会の企画案内	23
特別講演会	24
東京	25
名古屋	28
北陸	29
京都	30
諸所の企画案内	33
郵送お申込みのご案内	46
編集後記	47



心の泉



宇治カルメル会修道院（中庭の野いちご）



第三卷

第十一章 心の願望を調べ、またそれを抑えなければならない

4 自分を抑えなさい

だから、あなたが私にはからずに定めた計画に執着するな。初めは気に入っていて最善のものとして望んだことを、後になって悔やみ、憤りを感じることはないようにするためである。実は、よいと思う心の動きにもすぐ従ってはならず、またその反対の場合でもすぐ避けるのはいけない。よい決心と望みも、しばしば抑えなければならない。思慮に欠けるために知恵が迷ってしまうことなく、統一性のない方針が他人のつますきとなり、他人の反対があなたを不安におとし入れて倒してしまうことがないためである。

5 欲望に挑みなさい

時にはまた、自分に対して徹底的に、感覚的欲望に挑みなさい。体が何を望むかに気を配らず、どんなことがあっても体を霊に従わせるように努めなければならない。どんなことも快く受け、少ないもので満足し、粗末なもので喜び、気に入らないことに不平を言わないように、体を抑え、従わせなければならない。》

第十二章 忍耐の訓練、感覚との闘い

1 子

《主なる神よ、私に忍耐が必要であることは真実です。この世では一步ごとに反対にあうからです。私が、平和を得るためにひたすら努力しても、生活が闘いも苦しみもないものになることは、あり得ないのです。》

2 主

《子よ、その通りである。しかしあなたは、誘惑も逆らいもない平和を求めてはならない。むしろ、私が望むのは、あなたがさまざまな患難をくぐり抜け、多くの逆らいに鍛えられたとしても、なおそこに平和を見いだしたと、思うことである。

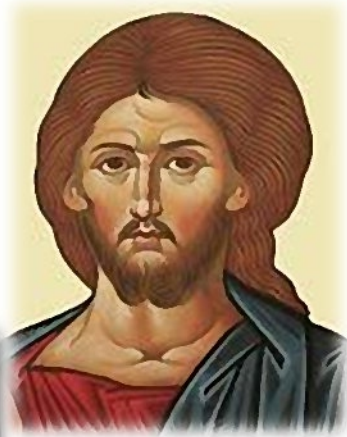
患難に耐えられないなら、どうして煉獄の火に耐えられるだろうか。二つの悪のうち、小さいほうを選ばなければならない。だから未来の永遠ごうかの劫火をのがれるために、現在の苦しみを、神の愛のために快く忍ぼうと努めなさい、あなたは、世間の人間には苦しみが少ない、あるいはまったくないと思っているのか。楽な生活を送っている者のなかにも、そういう人間はいないのである。》

キリストへのまなざし

わたしは



洗礼者ヨハネ



道であり、真理であり、
命である

ヨハネ 14・5

洗礼者ヨハネは二人の弟子と一緒にいた。

そして 歩いておられるイエスを見つめて

「見よ、神の小羊だ」と言った。

二人の弟子はそれを聞いてイエスに従った。

ヨハネ 1・35～37

6月教会は3日キリストの聖体、8日イエスのみ心、24日洗礼者ヨハネの誕生、29日聖ペトロと聖パウロを祝います。洗礼者ヨハネの誕生日はイエスの誕生日6ヵ月前、忘れられがちな祝日かもしれません。イエスは弟子たちに「女から生まれた者のうち、洗者ヨハネより偉大なものは現れなかった」と言われました。ヨハネの指し示す神の小羊。おん父への道、真理、命であるキリストを、さらに慕い求める日々となりますように。

ときと ところとすべては
キリストへむかっている
おがんでいる

～八木重吉～

伊従 信子(いより のぶこ)
ノートルダム・ド・ヴィ

創造主への賛美（10）

くのり 彰
九里 彰

アシジの貧者に似た人物として、日本には良寛さん（1758～1831）がいる。生涯無一物に徹した曹洞宗の僧で、多くの日本人から慕われている。彼が71歳の時、越後の三条で大地震が起こった。五合庵に住んでいた良寛さんにはまったく被害はなかったのだが、大被害を受けた与板にいた俳人山田杜喟（とこう）に宛てた手紙が残っている。

地震は信（まこと）に大變に候 野僧草庵は何事もなく
親類中 死人もなく めでたく存じ候

うちつけに 死なば死なずて 永らえて
かかる憂き目を 見るがわびしさ

しかし 災難に逢う時節には 災難に逢うがよく候
死ぬ時節には死ぬがよく候 是はこれ 災難をのがるる妙法にて候
かしこ

「災難に逢う時節には 災難に逢うがよく候 死ぬ時節には 死ぬがよく候 是はこれ 災難をのがるる妙法にて候」。この言葉を誤解する人も多いようである。それは、頭で理屈をこね、日常の論理で理解しようとするからであろう。だが、ここにはこの世を超脱した大愚良寛の悟りの世界が広がっているのである。アシジの聖フランシスコがキリスト教世界で大聖人として仰がれているのに、比較的最近の人であるせいであろうか、良寛さんの評価は今一つというところであろうか。

いずれにせよ、道元禅師の『正法眼蔵』を繙いたことがある者は、ただちに「生死（しょうじ）」の巻を思い起こすことと思われる。

かるがゆえに、生（しょう）きたらばただこれを生、滅きたらばこれ滅
にむかいて仕ふべし。いとうことなかれ、ねがうことなかれ。

道元の言葉はさておき、山田杜喟は良寛和尚に師事し、かなりの境涯に達していたと思われる。そこで、上述の言葉を伝えたのであろう。

キリスト教的に言えば、靈的な目、靈的な耳が不可欠なのである。日常の論理であれこれ考え、理解しようとする者は、キリストの言葉を、文字通りに取り、誤解する。本当のところは理解していないと思われる。信仰のまなざしがなければ、今、目の前にキリストが現れたとしても、その姿の中に神を見ることはないであろう。

（続く）

十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (125)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

「十字架の聖ヨハネの本質的で深遠な解説」(2)

十字架の聖ヨハネの主張は、時々、まとまりないもの、単に羅列されたもののようには思われますが、良く分析された主張は、それらに命を吹き込み、まとめあげ、最終的には究極の統一を見せてくれます。人間と創造された自然との関係に関する具体的な領域では、絶えず神的なものに、すなわち神から創られ、神の働きの内にある現存へと委ねていくこととなります。神の働きの中に現存していないならば、いかなる被造物も存在しないことでしょう。

十字架の聖ヨハネのヴィジョンは、創られた世界に対する三位一体論的計画が神から私たちに提供されることによって始まります。神は、二つの部屋——二つの階と言いましょ。高い階と低い階、上の階と下の階——に分けられた、「偉大な知恵によって造られた」宮殿のような、調和と美しさに満ちた宇宙全体、被造界を構想されたのです。8音節のロマンセ*の無邪気な言葉で、彼はこう歌っています。

下の住居は 数限りない
いろいろなもので 成り立っていた。
一方 上の住居は
すばらしい宝石類で 美しく飾られていた、
自分の得た花婿のようすを
花嫁が 知るために。
上の住居には
天使の諸隊が 配置された。
一方 自然の人間は
下の住居に 置かれた、
その成り立ちによって
やや劣ったもの (存在) として。

* 『「初めにみ言葉があった」という福音についてのロマンセ』 99-118 節

キリストの聖体

(マルコ 14 : 12 - 16、22 - 26)

復活節を終えた今、その喜びの余韻に浸りつつ、教会は聖木曜日の聖体の記念をあらためてお祝いします。

「取りなさい。これはわたしの体である。」

「これは、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。」

イエスは弟子たちにご自分の体と血を、パンとぶどう酒の形態によって授けられました。その後、イエスはご自身を裏切る者たちの手にゆだね、十字架の死を遂げられます。イエスは体全体でご自分を父に奉げ、罪人のために赦しを願い、血を流されたのです。イエスの父への愛と人類への愛が、その体全体と血によって表されました。あらかじめ、最後の晩餐で弟子たちに命じておいたパンとぶどう酒は、このイエスの愛をかたどる結晶に他なりません。このパンとぶどう酒をいただく者は、イエスがあの極限の中で奉げられた愛を受け取るのです。

これは、旧約時代に奉げられた和解の雄牛の血による契約とは比較になりません。神の子の体と血が奉げられたからです。イスラエルの民はモーセをとおして、動物のいけにえによって神との結びつきをいただきましたが、今私たちは、イエス・キリストの愛のいけにえをとおして神と結ばれるのです。十字架上のイエスの愛、イエスの願いが、そのパンとぶどう酒の中に込められています。復活し、罪に勝利したイエスご自身がそこに現存しています。復活によって永遠化されたキリストの愛は、イエスが定められたとおり教会がそれを行う時、そのパンとぶどう酒の中に聖霊によって注入されます。私たちは最後の晩餐の食事と同じものをいただいているのです。

キリストの命をかけた本気が、そこに込められていると知るとき、安易な気持ちでご聖体をいただくことはできなくなります。イエスが最後の晩餐において、弟子たちをはじめ人類をどれだけ愛したかはヨハネ福音書 13 章から 17 章を読めば見えてきます。この上なく弟子たちを愛したイエスは、その足を洗い、仕える姿を示し、彼らも同じように仕え合い、愛し合うようにと教えられました。また、父なる神に「彼らも、わたしと同じようにあなたに奉げられた者としてください」と祈られたのです。

ご聖体をいただく。それは、このイエスの本気を受け取ることに他ならないでしょう。私たちはこのイエスの本気にどれだけ本気で答えているのでしょうか？

(今泉健神父)

年間第 10 主日 (マルコ 3 : 20 - 35)

はっきり言うておく。人の子らが犯す罪やどんな冒瀆の言葉も、すべて赦される。しかし、聖霊を冒瀆する者は永遠に赦されず、永遠の罪の責めを負う。

本日の福音は、最も重要なことについてです。「本当に言うておく、人が犯す罪やどんな冒瀆の言葉も全て赦される」とは、文字通り「全てのこと、罪や冒瀆は何であっても赦される」ということです。例外はありません。赦される罪について理解するキイは、28節ではっきり「全ての罪や冒瀆の言葉は赦される」とあり、しかも29節では赦されない冒瀆や罪があると言っていることにあります。

28節は何を意味しているのでしょうか？ 人は悔い改めるときのみ罪が赦されるということをマルコは明確にしているのです。マルコ1:4に「洗礼者ヨハネが荒れ野に現れて、罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼を宣べ伝えた」とあり、またマルコ1:14-15には「イエスはガリラヤへ行き、神の福音を宣べ伝えて、『時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい』」とあります。このほかにもマルコ4:12及び6:12、使徒言行録2:38及び5:31も参照してください。罪の赦しを受けるためには誰でも悔い改めなければなりません——即ち、罪から神に向きを変え、神の恵みを信じて神に従うことです。マルコ3:28でイエスが「全ての罪や冒瀆の言葉は赦される」と言われるとき、心から悔い改める罪と冒瀆の言葉ということの意味しているのです。

しかし、なぜこの一つの冒瀆の言葉、この一つの特定の罪が悔い改めや赦しを不可能にしているのでしょうか？ 神の御子や、御父である神や、天使や、聖書や、教会に対する冒瀆とは何でしょうか？ 何故悔い改め以外は赦されないのでしょうか？ なぜ聖霊に対してだけは赦されないのでしょうか？ これは聖霊が私たちの救いに果たしている特殊で決定的な役割のためであると思います。御父である神に目を向け、それから罪に応じるために神の栄光から目をそむけるならば、それは悪です。もしこの世に送られた御子イエス・キリストに目を向け、そしてそれから罪に応じるために神の栄光から目をそむけるならば、それは二重の悪です。

しかし、どちらの場合にも希望はあります。御父は贖いを計画され、御子が贖いを完成されました。このすばらしい贖いは私たちの外部にあり、もし私たちが罪を悔い改めてキリストへの信仰に戻るなら、この贖いを頂けます。私たちの心を御父のご計画と御子の完成に振り向けるのが聖霊の独特で特別な役割なのです。私たちの目を開かせ、悔い改めさせ、御父が計画され御子が私たちのためにしてくださった全てのことを受け入れさせてくださるのが聖霊の働きなのです。

「神の恵みによってあなたが今日罪を悔い改めることができるならば、今実行しなさい、明日はできないかもしれないから。」

(Sr. Paulina)

年間第11主日 (マルコ4:26-34)

今日のみことばは、イエスが再び湖に出て行かれ、人々にお話しされた時の出来事。大勢の人が来られ、イエスは舟に乗って湖に、群衆は岸辺でイエスの話を聞いています。イエスは幾つもとたとえ話をされますが、その中に「神の国」の2つの話が出てきます。最初のたとえ話の中でイエスは、「人が土に種を蒔いて、夜昼、寝起きしているうちに、種は芽を出して成長するが、どうしてそうなるのか、その人は知らない。」と言われます。そしてもう一つ、小さな「からし種」の話が出てきます。

2つのたとえ話で共通しているのは、「種が芽を出して成長する」がどうしてなのか、人は知らないということですね。種の成長、それは神の恵み、神秘と言えるでしょう。私たちが知りえるもの、それは過ぎゆく時間の中にあって、あの時、この時、その時、時々状況を眺め、芽を出し、茎が伸び、花が咲いた、実を付けたことを知る訳です。そして刈り入れの機が熟したことを知り、農夫は実りの収穫を行います。

イエスがこの世に来られ、私たちのうちに神の国は始まっています。神の支配があるところが神の国…。私たちが生きるこの世界に神の国が広がり完成することを目指し、私たちもそれぞれの場で、農夫の様に「神の国」の成長に関わりながら歩んでいます。そのための道具として働きますが、神の働きがなければ種は芽を出し成長しませんね。神の働きは目に見えなかったとしても、大きな力があり、豊かな実りをもたらします。

神の国がテーマの今日ですが、私たちのうちにと考えるだけでなく、私のうちに神の支配があるのか、神に心を開いているか、神の国が私のうちに始まっているかどうかを見つめることも大切です。私のうちに神が働こうとされても、心を閉ざしては、神に心を開いていなければ、神が私のうちで働かれ、そして私たちが変えられ成長してゆくことはできないでしょう。

神に心を開き、信頼しながら、より頼みながら、神とともに歩んでゆけますように。目の前の一つ一つのことを大切に丁寧に行いながら、歩んでゆくことができます様に。私たちが神の国のための良き道具として働いてゆくことができます様に。

(Fr. 古川利雅)

洗礼者聖ヨハネの誕生 (ルカ 1:57-66, 80)

今日の典礼は、主日ではなく、神の独り子イエスキリストを世に迎える道を準備するために神が選ばれた、洗礼者聖ヨハネの誕生を祝う大祭日の典礼となりました。母のエリザベットは子を得られないと思われていた人でしたが、神の特別のいつくしみを受けヨハネを懐妊しました。近所の人々や親類はこのことを聴いて大いに喜び合ったと聖書は伝えています。エリザベットが神の母マリアの訪問を受けたとき、胎内にいたヨハネは喜び踊りました。ヨハネはマリアの胎内のイエスによって聖なる者、原罪から清められた者となり、真の光を証し、イエスキリストの道を整える者となりました。

ヨハネは神の人々の歴史の中で独特の役割を果たしています。聖書の旧約と新約の架け橋となりました。本来は旧約の人ですが、新約の始めにも存在していた人です。とはいえヨハネはイエスが救い主としての使命を全うし教会を創られる前に世を去っています。イエスはヨハネの偉大さを讃えながらも、神の国で最も小さな者でも、彼よりは偉大である (ルカ 7:28) と仰せになりました。ヨハネはイエスを正しく認識し、謙虚にイエスこそ皆が待ち望んでいるメシアであり、自分はその方の履物の紐を解く値打ちもない者であると宣言しました。復活のキリストにも会うことはありませんでした。ヨハネはイエスに先駆けて存在し、メシアであるイエスが来られることを伝えました。ヨハネは謙遜に自分の存在意味を認め、イエスは栄え自分は去っていく者であることを教えました。ヨハネは真の光、三位一体の神の証人です。イエスがヨルダン川でヨハネから洗礼を受けられた後天が開け聖霊が降り、“あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者” (ルカ 3-22) という声が天から聞こえたとき、ヨハネは静かに姿を消して行きます。

洗礼者ヨハネの生涯はわたしたちにとって特別な意味を持っています。洗礼の恵みによってキリストに従う者となったキリスト者は皆イエスを証しする主の証人です。言葉と行いによって信仰を知らせ喜びのうちに経験を分かち合うというイエスへの道を証しする使命を課されています。周りの人々に真の愛そのものであるイエスキリストを知らせ、そのいつくしみの愛のうちに生きる豊かな真の幸せな生活を分かち合う使命です。個人として、共同体としても。洗礼者聖ヨハネを見倣い、聖人の助けを願い、日々祈りのうちに主とともにイエスキリストの証し人として過ごしましょう。

(Sr. Paulina)

いのちの言葉 6月

平和を実現する人々は、幸いである、
その人たちは神の子と呼ばれる。

(マタイ 5・9)

マタイ福音書は、イエスの山上の説教から始まります。イエスはそこで「至福」について驚くべきことを告げています。

幸せで、自己実現している「幸いな人」とは、貧しい人、悲しむ人、柔和な人、義に飢え渴く人、心の清い人、平和のために働く人だとイエスは言われます。この世的に考えれば敗者で不幸な人とししか見えない彼らを指し、「幸せな人」だと。

さらに、神ご自身が彼らを満たし、慰めて下さること、天の国はこのような人のものであり、彼らは地を受け継ぐ、という大いなる報いを約束されます。

権力や出世を争うこの世にあって、私たちの目には、彼らは軽んじられ、ないがしろにされる存在とししか映らないのですが、こうした見方を完全に覆す革命がここに 있습니다。

平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる

福音的な意味の「平和」は、「神の救いの^{わざ}業がもたらす実り」ということです。ですから「平和」は何よりも神からの賜物です。

神は、人類とすべての被造物を父の心で慈しまれ、一致と調和のご計画を人類の上に持っておられます。「平和」はまさに神ご自身の特徴と言えるでしょう。

だからこそ、平和のために自らを捧げる人は「神に似た存在」であり、神の子と呼べるのでしょう。

キアラ・ルービックは記しています。「その人のうちに平和があるなら、その人は平和をもたらす人となります。大切なのは、神とそのみ旨を生きながら、自らの態度を持っていつも平和をもたらしていくことです。

『…神の子と呼ばれるであろう』とありますが、名前を与えられるということは、その名に示される者となることです。聖パウロも神を『平和の神』と呼び、『平和の神が、あなたがたすべてと共にあるように』とキリスト教徒たちに挨拶を送っています。

平和を実現する人とは、神と親しい関係を持ち、神の子として行動する人です。神が人間社会に秩序を刻み、その実りとしてもたらされる平和を証しする人々です」¹と。

平和とは、単に争いがない状態ではなく、異なる価値観があっても互いに波風を立てないよう妥協して済ませることでありませぬ。それどころか、平和を築くためには、まさに福音的な生き方と、世の風潮に逆らう勇気が求められます。

「平和を実現する人」とは自分の生活において、また他の人との関係において、

和解のチャンスを創り出していく人だと思えます。

まず何よりも神との和解、そして身近な人との和解を目指すことでしょう。家庭の中、職場や学校、教会や所属するグループ、地域社会や国際社会など、あらゆるところにチャンスがあります。

この姿勢は、真剣に隣人愛を生きることであり、あらゆる関係を癒す慈しみの業となるでしょう。

ベネズエラの若者、ホルへの体験です。

「放課後、級友たちが学校のやり方に抗議しようと集まり、車への放火や投石まで計画しているのを知りました。そのようなやり方は僕の信念に反するもので、到底同意できないと思いました。僕は級友たちに、理事長宛に手紙を書いて、暴力によらずに問題を解決する道を探るよう提案しました。するとみんな賛成してくれ、後日級友たちと準備した手紙を理事長に手渡すことができました。」

ここ数年来、多様性を尊重し合い、互いを受け入れ合うために、歴史や伝統、文化の違い、考えの違いを乗り越えて、対話と交わりを築くことがますます求められています。

フランシスコ教皇は言っています。

「それぞれに異なる声が調和して一つのコーラスとなるように、平和もまた、さまざまな違いが調和しながら築かれていきます。

私たちは互いに違っているからこそ、学び合えます。御父はただ一人、私たちはみんな兄弟です。兄弟として互いに愛し合いましょ。意見の違いがあっても、兄弟ですからすぐに和解しましょ。いつも兄弟でいましょ」²と。

平和や兄弟愛が、自分の町やその周りで芽生え始めているなら、その成長のために協力しましょ。社会にある分業や争いが少しでも緩和され、癒されていきますように。

- 1 キアラ・ルービック、平和を広める、チッタノーバ誌、25,[1981], 2, pp.42-43 参照
- 2 諸宗教代表者との集いでのフランシスコ教皇の挨拶（私訳）より、2017年11月28日（ミャンマーにて）

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

いのちの言葉の集い み言葉を生き、実りを分かち合うために

関東 6月10日（日）13:30～ 神奈川 カトリック藤沢教会 204号室
（週日に、調布、鷺沼、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも）
中部 6月9日（土）14:00～ カトリック緑ヶ丘教会（名古屋市緑区）
6月10日（日）14:00～ 瀬戸市みずの坂 サポートハウスゆうや
長崎 6月24日（日）11:00～ カトリック浦上教会 要理教室

連絡先：フォコラレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail:tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: conil157chl.wix.com/focolare-jp

今、私の居住するこの団地全域に大修繕補修工事が大規模におこなわれています。起伏のある広大な地に1200戸余りの世帯数であり、築50年を数えるという現代からすれば風格さえ感じられる古の建造物は、これまでもあれこれと大がかりなメンテナンス作業がなされてきたはずですが。そこには時代の趨勢につれて作業の方法など当然進歩があったはずですが。その渦中にいた私自身のその時の生活の状況、気持ちの在り方はさまざまにあったとは思いますが、それにしても今回の様相はとてつもなく新鮮に映り、私の目を奪い、興味を湧かせ、想像を掻き立て、遊びを促す、言ってみれば日常の逸脱を促すとさえいふべきものと相成ったのです。

5階建ての建物は上から下まですっぽりと薄墨色の紗幕に覆われて、明るい青空、初夏の豊かな緑の茂りの中に黒々と点在し、内部を近くに見れば、各階の周囲には回廊とも思しき渡り廊下が張り巡らされて、上下をつなぐ斜めの階段はどこか不安を覚えるような、やはりどう見ても或る異常な形態です。住み慣れた日常が一瞬のまばたきで異次元の景色に転じるかのような、何か危うい感じさえ覚えるのです。

薄暗い曇りの午後の静かなひとときに、読書の頁からふと目を上げたときなど、昔観た映画「薔薇の名前」での一場面、修道院の内部、階段が上下斜めに入り組んで絡む構造を俯瞰した、或る種不穏な目くるめく幻想的神秘的な映像が思い出され驚いて我に返ったりします。

雨の夜は格別です。耳に騒ぐ聞きなれない雨音は、金属の足場に当る滴りでしょうか。立ち起きて深夜の窓外に目をとめれば、雨に濡れた紗幕は何を捉えるのか、その影は蝙蝠かたまた小動物の死骸のように並び垂れ下がり、辺りは重く暗く鬱蒼と沈んで、「アッシャー家の崩壊」を彷彿させるかのちょっとしたゴシック調であるのです。

ちょうど今から10年前に私は本誌に2回、「幻想怪奇」—— 想像する力と題してゴシック好きの諸々想いを載せています。（それで今回は続その2なのです）ほんとうに幼稚なレベルの愛好者ですが、ゴシックにはとても惹かれます。江戸川乱歩、中井英夫、澁澤龍彦、京極夏彦、皆川博子・・・そして教科書のような評論、高原英理・・・耽ります。うつつを抜かします。

快楽の極みではあります。

而して考えてみるのですが、私たちはもしかして小さな赤ん坊の頃からお化けなどが大好きなのではないでしょうか。

幼い子供向けのお化けの絵本はよく見かけます。 学校の怪談大好きです。お化け屋敷は繁盛します。 夜更けの肝試し会は？

どうして私たちは怖いお話・・・恐怖、不安を好き好んでこの身に寄せ付けるのでしょうか。 不思議に不思議に思うのです。

中世のカトリック教会 カトリシズムが、ゴシック、ゴシックロマンスとは切っても切れない深い関係にあるといわれますが、建築物のみならず例えば対比の激しさというのでしょうか、光闇、正統異端、天使悪魔、敬虔な祈り残酷な刑罰、絢爛の様式美さかしま・・・ 突き詰めれば双方は一体なのではどの思いを誘うほど私たち人間にとっては除き得ない事柄といえましょう。

自分自身を保守するけれども規制もする枠を崩し、考え知っている自らの限界を突き破り、おのれの欲望に身を傾ける。 暗黒の欲望を知る。

決してこの手で届ききることのない私の内部を、想像する力はどこまでも遠くどこまでも深く翔るのです。

さて・・・

修繕補修工事の内容によっては、すべての部屋のカーテン、ブラインドは日なか引きっぱなしになります。 職人さんたちがベランダの中や窓の際を自由自在に動き回るからです。 双方にとってのプライバシー保護なのです。

修繕工事などとは思わないことにして、ずっとずっと外からこの絵図を目にしたら一体何事だと思うのでしょうか。 薄黒い紗幕に覆われた高い建物、その上下周囲あらゆる場所を自由自在に動き回る男たち、日が暮れようとしている。 閉ざされたブラインドの中には？何？・・・音がした、何？

誰か・・・

此処へ助けに来てください・・・ 声が聞こえなかったか？

(上野毛教会信徒)

糸巻き棒からペンへ(32)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

出来事や読書や「学識のある」人々への相談や経験を経て、テレジアはますます流暢さを増し、明確な教育的意図をもって、ますます複雑な仕事に立ち向かっていきます。歴史的自叙伝的著作（『良心の物語』*、『自叙伝』、『創立史』）ばかりでなく、靈的論考（『完徳の道』、『靈魂の城』、『雅歌についての黙想』）や法的な論考（『会憲』、『司牧訪問の仕方』）も、祈る人々に同伴するもの、内的あるいは超自然的な世界を支配するための案内書となることを目指しています。イエスのテレジアは、偉大な博士となりましたが、この分野では、自分が体験によって裏打ちされた言うべき言葉を持っていることを、十分意識していました。「あつという間に過ぎ去ってしまう内的な靈の事柄を言葉で言葉で表すことは、とても難しいものでした…。超自然的な事柄について話していますが、それらは、自分の努力や熱心さで、どんなに努力しようとも、獲得することはできないものです」（『靈的報告集』54,1-3）。

* 『靈的報告集』と同じ。

こうして、最初の内、テレジアは、超自然的な体験について話すための、ふさわしい言葉が欠いていたので、言葉と格闘せざるを得ませんでした。さらに、全生涯を通じて、女性を蔑視し、女性に書くこと（ましてや内的な事柄、絶えずルター主義の嫌疑のかかる事柄について書くこと）を許さなかった当時の社会的状況とも対抗しなければなりません。まさに内的な困難と時代状況の困難が、彼女の文学的創造性の主要な原因となっていたのでした。これらの理由を明白なこととして受け入れるだけで、私たちは、彼女の生涯や著作に、——そのメッセージは、しばしば（おそらく無意識のうちに、しかし無実とは言えない仕方）誤解されたように——誤解することなく近づいていくことができるでしょう。

聖書の各巻が書かれた背景（著者は「どのような」具体的な問いに答えようとしているのかを知ること）や文学のジャンル（読者が理解できるように「どのように」答えているのかを知ること）を考慮にいれなければ、それらを理解できないように、聖テレジアが言っていることやどのように言っているか、また言っていないにもかかわらず、彼女の手紙や同時代の人々の証言を読むことによって推測できることに注意を払わないならば、彼女の著作を理解することはできないでしょう。

（続く）

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>
の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2018年5月9日

跣足カルメル修道会ザベリオ・カニストラ総長 スペインのイベリア管区を訪問



ザベリオ・カニストラ総長は、4月3日から5月15日まで跣足カルメル修道会のイベリア（イエスの聖テレジア）管区を訪問しました。この訪問は、この後、アグスティ・ボレル神父によって年末までには完了する予定です。

ザベリオ総長は、この訪問を、昨年9月に開催されたアリッチャでの拡大総長顧問会での会の現状報告を考察の土台にして、イベリア管区の修道者に対して行なわれた生涯養成週間と共に、マドリッドから始めました。その後、アラゴン、カタルーニャ、ムルシア、アンダルシアと、各地方の修道院を訪問し、エストレマドゥーラでその訪問を終えました。その間、男子カルメル会のすべての修道者たちと会い、話し合い、またいくつかの女子カルメル会修道院を訪問し、いくつかの地域から集まった修道女たちとも会いました。

また総長は、カルメル在世会の兄弟姉妹たちやカルメル会の共同体と共に働く他の信徒のグループとの集会をもちました。4月5日に総長は、マドリッドのトリアナ通りにある学生の共同体を訪問しました。

今回のザベリオ総長の訪問は、カルメル修道会外にも反響を及ぼし、総長はいくつかの公共メディアと教区メディアのインタビューを受けました。

最新刊のご案内

修道院の風

宇治カルメル会 修士 原 造・著

競争社会の真ただ中、ある夜、闇の中に流れ来るふしぎな調べに足を止めた。それは、初めて耳にした、心に沁みる祈りの声――。

この世に、しかも身近に、自分のためではなく、神と人びとのために隠れて生きる人びとがいることも知った。そしてそこから、自分の人生設計にはななかった、洗礼、修道生活という新たな世界へと導かれてきた。

これは、修道士となり、人生も黄昏のときを迎えた祈りの日々、折りにふれて綴った随想の風。

著者★原 造（はら つくる）

1946年 群馬県桐生市生まれ。

1991年 男子靴足カルメル修道会入会。

1997年 荘厳誓願宣立。

現在に至る。

5月10日発行

女子パウロ会
新刊案内



B6判・128頁・定価 本体1,100円＋税
ISBN978-4-7896-0794-0 C0016 NDC194

愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳
岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生涯の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 福音書(1)
- 第2章 福音書(2)
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なエネルギヤ
- 第10章 英知と(空)

第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 (愛のうちにある)
- 第15章 花嫁と花知
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じるかたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。





書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

——— 目次 ———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
 - 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
 - 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
 - 4 脱原発の倫理／久保文彦
 - 5 何のために働くのか／神谷秀樹
 - 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
 - 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
 - 8 関係の倫理学／清水正之
 - 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
 - 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
 - 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
 - 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
 - 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

オリエンス書籍案内



中川博道 神父の
待望の新刊が出来ました！！

存在の根を探して

●イエスとともに

天地創造、カインとアベルの物語など、聖書に記された人間の姿、そして十戒の現代的意義や主の祈り、イエスの生き方をていねいに見ていくことを通して、心の奥底での神との生きた出会いへと読者をいざなう。カルメル会での40年にわたる観想生活から生まれた本書は、カルメルの靈性に触れ、味わう入門書として最適です。

主な内容

- ・ 生きることの原点
- ・ 「聴く」という生き方の意味
- ・ 私とは誰？——自らの存在に聴き入る
- ・ 現代という荒れ野を歩む道
- ・ 生きるイエスを捜し続ける教会
- ・ 「心の深い深い、いちばんの奥底」へ



B6判・1700円+税 ISBN978-4-87232-090-9

オリエンス宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

全国のキリスト教書店、Book Web、オリエンス宗教研究所HPもご利用ください。

カルメル誌 新刊案内



2017年 春号 No.368

《霊的生活への招き》

第二バチカン公会議後における信仰生活の文脈
福田正起範

信仰生活(再)入門
テレーズと共に歩む 幼子の道(1)—神は「愛」?
片山はるひ

カルメル会の会則に見る
アシェーシスと修道生活(1)
九里彰

現代に響くルルドの霊性(1)
—ルルドとカルメル会の絆
須沢かおり

神の心を揺さぶり、神を動かす人間の心からの叫び
森 一弘

風に吹かれて(15)—十字架の森
原 造

キリストに伴われて季節を巡る(1)
伊従信子

祈りを教えてください(1)
—ルカ福音書による無力な者の祈り
田畑邦治

見える世界の向こう側
森 みさ

神が慈しまれた道(17)
奥村一朗



特集号「三位一体の聖エリザベトの祈り」
—現代人へのメッセージ—

エリザベトと共に生きる—永遠の光のもとで
片山はるひ

続・歴史の中の三位一体のエリザベト
大瀬高司

三位一体のエリザベトにおける苦しみの神秘
九里彰

三位一体のエリザベトによる
「聖書に基づくキリスト中心の生活」
ポーリン・フェルナンデス

父と子と聖霊の唯一の神を信じる
—三位一体のエリザベトと共に
松田浩一

ご案内

1冊 460円 A5サイズ 50～70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会
信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

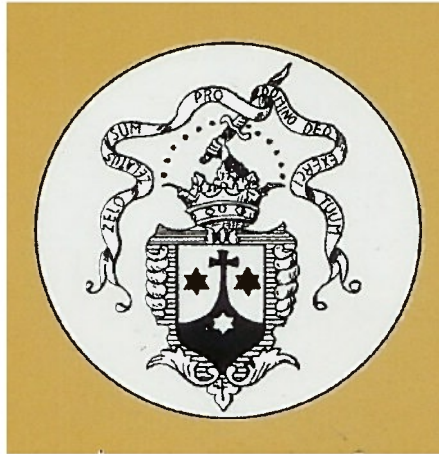
●送付ご希望の方は、600円【460円 (+送料 140円)】程度の献金を下記
へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬
+特集号 計 3,000円)を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

お問い合わせは事務担当 竹田まで TEL(03)5706-8356

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）

特別講演会

主催：跣足カルメル修道会

講演テーマ：

「エディット・シュタイン（十字架の聖ベネディクタ）
における女性の霊性」

講演日時および会場：

6月 6日（水） 15時：上野毛教会聖堂

6月 8日（金） 15時：西宮女子カルメル会修道院

6月17日（日） 14時：伊達女子カルメル会修道院

講師：

フランシスコ・ハビエル・サンチョ・フェルミン神父（OCD）

（跣足カルメル修道会司祭。スペインのイベリア管区所属。神学博士。霊性神学や神秘主義が専門。論文や著作を多数発表出版。エディット・シュタイン全集のスペイン語訳の共同監修者。アビラの CITEs [イエズスの聖テレジアと十字架の聖ヨハネの国際センター] 所長。アビラ神秘大学校長。教鞭を取る傍ら、国際会議や講演、黙想指導等に各国から招かれ、世界的に活躍している。）

通訳：

九里 彰神父（OCD）



***** 日帰り黙想会 *****

☆☆☆聖人たちをささえた神のことは☆☆☆

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことだ”とヒエロニモは言いました。
第二ヴァチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト者は、しばしば聖書を読んでキリストを知るすばらしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示聖章6章25) 信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように・・・

場所：カルメル会聖テレジア修道院(黙想の家)

指導：福田正範神父

※午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前10時～ご利用が可能です。

昼食の準備のためあらかじめご連絡をお願い致します。

費用：午後からのご参加・・・¥2000、午前からのご参加・・・¥3500

日時：2018年 5月11日(金) 午後1時30分～4時

5月24日(木) //

6月28日(木) //

7月6日(金) //

7月26日(木) //



お問合せ・お申込み：

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL. 03-5706-7355

FAX. 03-3704-1780

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

上野毛 霊性センター(東京) (2018年6月～2019年3月)

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院(黙想)**

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
2018年12月24日(月)～25日(火)朝食≪講話なし、夕食なし≫

聖書深読黙想会 大瀬高司 神父

2018年 6月 2日(土)夕食～ 3日(日)午後4時
9月29日(土)夕食～30日(日)午後4時
12月 1日(土)夕食～ 2日(日)午後4時

日帰り黙想会 13時30分～16時 福田正範 神父

私たちの毎日の生活が神のみことばの光によって照らされますように・・・。

2018年 6月28日(木)
7月 6日(金) 7月26日(木) 10月26日(金)
11月8日(木) 11月30日(金) 12月13日(木)
2019年 1月11日(金) 1月24日(木) 2月 7日(木)
2月22日(金) 3月 7日(木) 3月22日(金)

*各日、午前から個人静修も可能です。(昼食付)

*申し込みは、3か月前より受付致します。

奉獻生活者のための黙想会 福田正範 神父

2018年

8月 1日(水)17時～ 8月10日(金)朝
8月16日(木)17時～ 8月25日(土)朝
12月27日(木)17時～ 1月 5日(土)朝

奉獻生活者ならびに一般信徒のための黙想会

2018年

10月10日(水)17時～10月19日(金)朝 福田正範 神父

青年黙想会(男女) 35歳位まで

2019年

2月16日(土)16時～17日(日)16時 カルメル会士

召命黙想会(男女) 40歳位まで

2018年

11月23日(金)16時～25日(日)16時 カルメル会士

特別黙想会 S r. 伊従信子 (ノートルダム・ド・ヴィ)

2018年

11月16日(金)20時～18日(日)16時



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、カルメル会霊性センターニュース、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>

カルメル修道会 一日静修 in 名古屋

—カルメル会士とともに過ごす聖母の土曜日—

日 時 : 2018年 6月9日 (土) 13時から 17時

場 所 : カルメル修道会 日比野 (本部) 修道院 (カトリック日比野教会)

プログラム : 13時 ~ 講話・黙想など
16時 ~ ミサ (ミサ中に教会の祈り)、サルヴェ・レジナ (ミサ後)
17時 解散

- ・受付開始は12時半の予定です。(聖堂には12時からお入りいただけます。)
- ・途中、ゆるしの秘跡の時間を設ける予定です。
- ・プログラムに必要な「祈りのリーフレット類」は、こちらで準備いたします。

そ の 他 : 参加のための事前連絡は不要です。当日、直接会場にお越し下さい。
(尚、当日は、1,000円程度のご寄付を宜しくお願いいたします。)

問い合わせ : 郵便、FAX、E-mail の何れかで「カルメル修道会 一日静修係」まで。

郵便 456-0062 名古屋市 熱田区 大宝 4-5-17
FAX 052-681-6445
E-mail hibino@carmel.or.jp

今後のスケジュール

7月 7日 (土) 9月 15日 (土)
10月 27日 (土) 11月 17日 (土) 12月 8日 (土)

何れも原則13時から17時まで。ホームページでもご案内しています。

<http://www.carmel-monastery.jp>

< 主催 > 男子跣足カルメル修道会 日比野 (本部) 修道院 (大瀬神父・ウイラー神父・古川神父)

金沢黙想案内

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788

宇治カルメル会 2018年度 黙想会案内

【一般のための黙想】・1泊2日（午後5時～午後4時）

~~7月14日(土)～15日(日)~~

→変更 7月7日(土)～8日(日)「真の靈性を探す教会」 中川博道神父

9月8日(土)～9日(日) 「人は新たに生まれなければ、
神の国を見ることはできない」(ヨハネ3・3) 九里彰神父

11月23日(金)～25日(日) ※2泊3日「目覚めていなさい」 中川博道神父

【聖書深読黙想会】(午前10時～午後4時)

7月7日(土) 九里彰神父

11月17日(土) 中川博道神父

9月1日(土) 中川博道神父

【水曜の黙想】(午前10時～午後4時)

6月20日(水) 「まことの食べ物、まことの飲み物」 九里彰神父

7月25日(水) 「預言者エリアとカルメル」 中川博道神父

9月26日(水) 私を生まれ変わらせるユウカリステア Sr.ロサ

10月24日(水) 「ピンチの時は注意深く」 中川博道神父

11月21日(水) 「永遠の命」 九里彰神父

12月19日(水) 私たちの内に宿りたいインマヌエル Sr.ロサ

【聖テレーズの黙想】(午後5時～午後4時)

9月29日(土)～30日(日) 中川博道神父

【カルメル青年の集い】(午前10時～午後4時) 中川博道神父

6月9日(土) 11月23日(金)

【青年の黙想会】(午後5時～午後4時)

9月15日(土)～16日(日) 中川博道神父

【一般のためのカルメル靈性】(午後5時～午後4時)

10月13日(土)～14日(日) イエスの聖テレジア 中川博道神父

12月8日(土)～9日(日) 十字架の聖ヨハネにおける愛の変容 九里彰神父

【生活の中での靈的同伴】(金曜午後 8時〈夕食なし〉～土曜午後4時)

7月20日～21日

11月2日～3日

9月14日～15日

九里彰神父

【待降節の黙想】（午後5時～午後4時）

12月1日（土）～2日（日） 「人となられた神」 九里彰神父

【奉獻生活者の黙想】（午後5時～午前9時）

5月28日（月）～6月6日（水） 中川博道神父

8月5日（日）～14日（火） 九里彰神父

8月16日（木）～25日（土） 中川博道神父

11月6日（火）～15日（木） 九里彰神父

12月27日（木）～1月5日（土） 中川博道神父

祭日のミサに参加するために

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30（講話なし、各食事つき）

【クリスマス】

12月24日（日）～12月25日（月）

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願いいたします。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）

Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457

E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

宇治聖テレジア修道院（黙想）の 「建築基金」への献金のお願ひ

主の平和がいつも皆様の上にありますように

宇治の黙想の家は、1962年に建てられ、すでに54年の歳月が経っております。老朽化が進み、いろいろな点で支障をきたしております。そのため、新しく建て直す必要性が出てまいりました。会内で検討を続けてまいりましたが、財源に余裕がなく、新築計画が頓挫しております。

黙想の家は、キリスト者の霊的生活を培うために無くてはならないものです。またカルメル修道会は、霊的指導を会の固有使徒職としております。この意味でも、また日本の教会のためにも、静かに黙想する場所を、信徒の皆様のために確保してゆきたいと願っております。

建築資金の確保のため、少額でも結構ですので、皆様の御協力をいただければ幸いです。お志のある方は、以下の会本部の銀行口座か郵便貯金口座にお振込みください。その際は、誠にお手数ですが、お名前とご住所、振込み日と金額を、郵便かファックスで本部までお知らせくださるようお願い申し上げます。よろしくお願ひいたします。

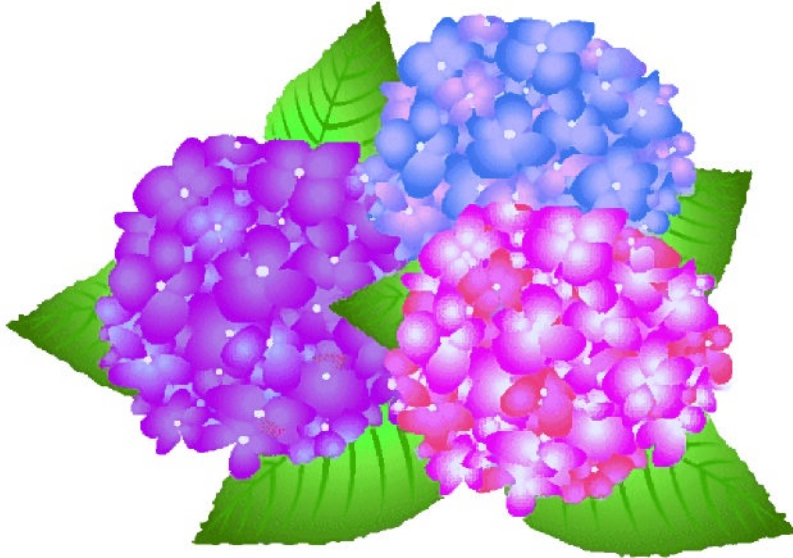
三井住友銀行
上前津（カミマエヅ）支店
普通口座：7205805
名義：男子洗足カルメル修道会

郵貯銀行
記号：10040
口座番号：56845391
名義：男子洗足カルメル修道会



男子洗足カルメル修道会本部
〒456-0062 愛知県名古屋市熱田区大宝 4-5-17
Tel：052-671-1558 Fax：052-681-6445

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
慈しみ深き会
詩編の会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。



カルメル霊性センターニュース

諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

2018年以降の予定

今後の内観は、希望者の日程や会場・修道院の都合を調整して行います。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターにお問い合わせください。

電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

(新住所)

◎〒662-0003 兵庫県西宮市鷺林寺町3-46 シトー会

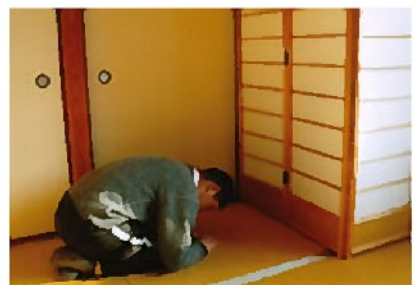
西宮の聖母修道院 司祭館

「心のいほり・内観瞑想センター」 藤原神父

FAX 0798-71-5234 Eメール fujinao1944@nifty.com

<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。



真命山 2018年 — 祈りの集いのご案内

毎月第2木曜日 (10:00～15:00)

指導者 フランコ神父

*は聖ザベリオ宣教会ダニエロ・マルケット神父

個人またはグループでの黙想会

研修会も歓迎いたします(要予約)

- 1月11日 五旬節続唱「聖霊、来たり給へ」
- 2月 8日 聖ボナベンツラの祈り
- 3月 8日 聖アンセルモの祈り
- 4月12日 聖フランシスコ・ザビエルの祈り*
- 5月10日 「サルベ・レジナ」
- 6月14日 聖心の連願
- 7月12日 ロヨラの聖イグナチオの祈り*
- 8月 休み
- 9月13日 幼いイエズスの聖テレジアの祈り*
- 10月11日 アッシジの聖フランシスコ作とされている「祈り」
- 11月 8日 シャールズ・デ・フーコーの祈り*
- 12月13日 「テ・デウム」

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com



講話と祈りの集い



2018年6月16日(土)

午後2時～午後5時30分

担当 片山 はるひ

講話・祈り・質問・分かち合い

場 所：ノートルダム・ド・ヴィ（東京・上石神井）

参加費：200円

幼きイエスのマリー・エウジェヌ神父著の
『わたしたちの念祷』

（いつくしみセンター 本体1500円+税）を用いて
講話を致しますが、本をお持ちでない方もご参加いただけます。
また、本は当日こちらでご購入いただけます。



お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jesuits.or.jp/>

★申込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
サダナ I	6/14(木)17:30- 17(日)17:00	Fr植栗	カルメル修道会 上野毛修道院 黙想の家 (世田谷区上野 毛)	来間(くるま) 裕美子※ Tel 090-5325-2518 045-577-0740 sadhana@7123@yahoo.co.jp
入門C	6/24(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道 院1F (四ツ 谷)	同上
サダナ I	7/20(金)17:30- 23(月)16:00	Fr植栗	女子御受難修道 院 (宝塚市)	同上
サダナ I	8/16(木)9:00- 18(土)17:00	Fr植栗	札幌(詳細は右 記にお問い合わせ せを)	本間 Tel 080-3260-1864 本間不在時 山崎 Tel 090-4720-2157
サダナ I	8/24(金)17:30- 27(月)14:00	Fr植栗	妙高教会 赤倉山荘 (妙高市田切)	佐藤範子 Tel 080-3145-3646

※不在の場合は、渡辺由子

Tel&Fax : 042-325-7554

◆サダナ I (入門A.B.C)

体の営みと想像とを生かして祈りを深め「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

◆サダナ II

Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

◆フォローアップ・・・サダナ Iを終えた方。

◆入門C・・・入門Aまたは入門Bを終えた方。



ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1

Tel： 077-579-7580

Fax： 077-579-3804

Eメール：karainorind92@mbe.nifty.com

ホームページ：<http://www.ssnd.jp/>

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8 日間の個人指導による黙想

初日は、18 時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

① 2018 年 5 月 6 日 (日) ～ 5 月 14 日 (月)

② 8 月 14 日 (火) ～ 8 月 22 日 (水)

③ 10 月 7 日 (日) ～ 10 月 15 日 (月)

④ 12 月 27 日 (木) ～ 2019 年 1 月 4 日 (金)

B. 祈りの体験：週末 3 日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

① 2018 年 2 月 2 日 (金) ～ 2 月 4 日 (日)

② 2 月 23 日 (金) ～ 2 月 25 日 (日)

③ 3 月 16 日 (金) ～ 3 月 18 日 (日)

④ 6 月 22 日 (金) ～ 6 月 24 日 (日)

⑤ 7 月 13 日 (金) ～ 7 月 15 日 (日)

⑥ 9 月 21 日 (金) ～ 9 月 23 日 (日)

⑦ 11 月 16 日 (金) ～ 11 月 18 日 (日)

C. 講話 黙想 (奉獻生活者のため)

2018 年 5 月 30 日 (水) ～ 6 月 7 日 (木) 雨宮 慧 師 (東京教区)

◎ 対象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 氏名(カタカナ) 2) 〒住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Fax で「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10 日前までに申し込んでください。 先着順 11 名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方は
ご相談ください。(但し、上記の日程と 8 月 1 日～8 月 9 日、9 月 1 日～9 月 7 日を除きます。)

2018年度 女子青年黙想会

	日時	テーマ	講師
1	5月26日(土)～27日(日)	マルコによる受難	山内十束師(ご受難会)
2	7月7日(土)～8日(日)	マタイによる受難	山内十束師(ご受難会)
3	2019年 2月16日(土)～17日(日)	ルカによる受難	山内十束師(ご受難会)

場所： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

対象： 独身女性青年信徒

費用： 2,500円 (一日参加も可)

申込み・問合せ： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院 シスター桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

マタイによる受難

2018年度 第2回 女子青年黙想会

日時： 7月7日(土) 15:00 ～

8日(日) 15:30 まで

場所： ノートルダム唐崎修道院 (JR京都駅から30分)

指導： 山内 十束 師 (ご受難会)

対象： 独身青年女性信徒

費用： 2,500円

締切： 2018年7月2日(日) まで

〈申込み・問合せ〉

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会 Sr. 桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

【入門講座】

毎週金曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本
テーマを取り扱います。無料

- 6/1 新約聖書の神理解—主なる父
- 6/8 祈りによる上理解—神の偉大さと近さ
- 6/15 救い主の役割—人類の待望
- 6/22 神の国—イエスの告げるメッセージ
- 6/29 イエスの生き方

—神に遣わされて人に仕える

- 7/6 イエスの人間関係—罪人と弟子と共に
 - 7/13 イエスは誰か—イエスの自己理解
 - 7/20 最後の晩餐—自分を与えるイエス
 - 7/27 イエスの受難—その史実と意図
- ※8月全体、12/28、1/4は休み

【理解講座】

第1・3火曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。
信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、
キリスト教の中心的テーマを探求します。無料
2年間のコース。途中参加・部分参加も可

- 6/5 世界の根源—創造的自由・進化・摂理
 - 6/19 人生のうちに働く超越
—神経験の多様な形
 - 7/3 「私は在る」
—旧約における神の自己啓示と預言
 - 7/17 神の語りかけ
—「契約」と「救い主」の待望
- ※8月全体は休み

【土曜アカデミー】

下記(予定)の土曜日:

9時30分～12時、岐部ホール4階404、
各時代の文章を読んで、思想史一般とキリス
ト教哲学・神学の相互関係を考察します。無料
キリスト教思想史に関心を持っている方。
プログラムの詳細は、別途配布。

参考書:K.リーゼンフーバー著『西洋古代・中世
哲学史』『中世思想史』平凡社ライブラリー
2018年度のテーマ:
近代と現代におけるキリスト教と理性

- 6/16 アビラのテレサ:観想的祈り(16世紀)
- 6/30 デカルト:自己認識と神認識(17世紀)
- 7/14 パスカル:近代の学問とキリスト体験
(17世紀)

【神学読書会】

第2・第4木曜日:18時～20時

上智大学内S.J.ハウス、第5応接室。
『リーゼンフーバー小著作集』から霊性と
神学に関する文章を読んで、話し合います。
テキスト:第Ⅲ巻「信仰と幸い—キリスト教の本
質」
随時、どなたでもご自由にご参加ください。
※祝日、8月全体、12/27は休み。

【会社帰りの黙想】

毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時

聖イグナチオ教会マリア中聖堂
信仰・宗派を問わず、どなたでも。
随時の参加・遅刻も可。お気軽に。無料
※祝日。8月全体は休み。

【祈りの集い】

下記の土曜日 13時30分～16時

上智大学内S.J.ハウス、第5応接室
講話、黙想、ミサがあります

- 6/2、7/7、8/4、9/15、10/6、11/10、12/1

【ロザリオの祈り】

上記同日のミサに続いて 16時10分～16時50分
クルトウルハイム1階右テレジア小聖堂

【夕方のミサ】

下記の月曜日 18時～19時

上智大学内S.J.ハウス隣クルトウルハイム1階右
テレジア小聖堂

- 6/25、7/23、9/10、10/29、11/26、12/10

【坐禅会】

第1、第3月曜日：18時～20時

上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋
2回坐り、間に講話。遅刻・不定期の参加も可。

※祝日、8月全体は休み

【通う霊操】

8/18(土)～8/26(日)毎日18時～20時45分

上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂

第1の講話・黙想18:00－、第の講話・黙想
19:00－、ミサ20:05－。随時、どなたでも。

【黙想会】

上石神井 1泊7000円

6/23(土)10時～6/24(日)14時

10/13(土)10時～10/14(日)14時

申込みの締切りは、初日の10日前

(予定) 関西：9/22(土)13時～9/23(日)15時

宝塚黙想の家 Tel.0797-84-7863 Sr.田中

【坐禅接心】

(予定)

8/10(金)11時30分～8/12(日)12時30分

秋川神冥窟 1泊2400円

申込締切：初日の7日前

参加される方はシーツ2枚と

枕カバーをお持ち下さい。



【感謝のミサ】

7/28(土)14時～

上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂(定員80名)

【クリスマス会】

12/8(土)10時～13時

聖イグナチオ教会岐部ホール4階404

【クリスマスのミサ】

12/23(祝)14時～

上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂

【クリスマスの黙想】

12/25(火)18時50分～20時10分

聖イグナチオ教会マリア中聖堂

—上記の日程に変更がある場合は、
信徒会館1F掲示板でお知らせします。—

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03-3263-4584

クラウス・リーゼンフーバー神父

(上智大学名誉教授)

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学S.J.ハウス

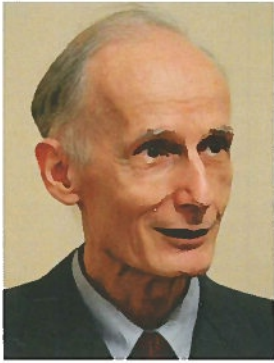
電話 03-3238-5124(直通)

-5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と靈性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、靈的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN 定価(本体+税)
第1巻	I 超越体験 一宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想 日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と靈性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拓けて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践 信仰との関わり方の薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー, クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学の人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
—観想の祈りへの道—

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室
12月のみマリア聖堂（ミサあり）

14：00～16：00

【2018年予定】

1月18日 第13の歌 終了
3月22日 第14及び15の歌（1～14） 終了
5月24日 第14及び15の歌（15～30） 終了
7月26日 第16の歌
9月27日 第17の歌
11月22日 第18の歌と第19の歌
12月20日 第20及び21の歌（1～19）

【2019年予定】

1月24日 第22の歌
3月21日 第23の歌と第24の歌


*参加費無料（献金歓迎）

*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

九里彰神父（カルメル会司祭）



※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。



午後の静修<講話・念禱・ミサ>へのおさそい

《 神の母の誕生 》

— マリアとわたしたち —

日 時：2018年9月8日(土)
12時～16時(受付11時)

指 導：中川博道神父 (カルメル修道会)

対 象：どなたでもご参加ください。

※実費費用の為に献金をお願いします。

要申込：住所・氏名・電話番号・所属教会
をご記入の上、

FAX 又はメールにて (返信します)

定員になり次第〆切(6月1日から受付開始です)

FAX:045-402-5131

e-mail:shihennokai@gmail.com

場 所：聖パウロ修道会 若葉修道院

東京都新宿区若葉1-5

JR中央線/営団地下鉄 丸ノ内線・南北線 「四ツ谷」駅下車

サンパウロ→ドンボスコ→ファミリーマートを左折


→甘栗太郎を右折→道なりに右折→90m直進

四ツ谷小学校の正面

主催：「詩編の会」

問合せ：TEL/FAX：045-402-5131 (藤井)

e-mail: shihennokai@gmail.com



聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち1箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 20,360円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 19,130円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号 朝日カルチャーセンター通信講座課

電話 03-3344-2527（直通）

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局 Srローザ
にお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：九里彰神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srローザ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

『靈性センターニュース』

* 郵送お申込みのご案内 *

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号~12月号（但し8月号は休刊）となり、
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座（新設）
へお振り込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
《変わりました》 reisei@carmel-monastery.jp

「靈性センターへの献金」のお願い（上とは別）

「靈性センターニュース」は、7月より、宇治靈性センター事務局で編集、
印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担し
ております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局
なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



編集後記

先日、黙想会終了後の茶話会でのこと。ある方が電車に乗っていた時のことを話された。女子高校生が数人入って来て、おしゃべりをしながら、結婚の話になったらしい。その中の一人が、大きな声で「料理のできない男なんて!」と言ったので、坐っていた大人は皆、下を向いて笑いをこらえていたとのことであった。

変われば変わったものである。「男子厨房に入らず」が当然の時代に生まれ育った私には、驚くばかりである。男五人(父と兄弟四人)の中に母一人。末子の私は、時々、下ごしらえの時に手伝わされたことはあったが、料理を教わったことはない。母も息子たちに料理を教えようとは思わなかったようである。料理ができないということは、男として恥ずかしいことではなく、ごく普通のことであった。料理が上手にできるということは、逆に奇異の目で見られた。

いつのまにやら、「料理のできない女なんて!」という時代は過去のことになったらしい。若い夫婦の場合、家事を半々にしない夫は、「みくだりはん(三行半)」を突きつけられるそうである。恐ろしい時代になったものである。花嫁修業ならぬ花婿修業に、料理教室が繁盛する時代が到来したのかもしれない。

(P. 九里)

男子跣足カルメル修道会のホームページ

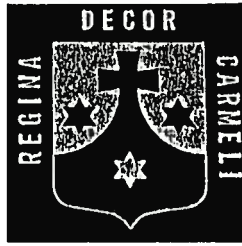
<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています



『靈性センターニュース』お持ち帰りの方へ
一冊 100 円程度の献金をお願い致します



~~~~製本／発送のご協力お願い~~~~

「靈性センターニュース」の製本/発送を、2017年7月号より宇治修道院で行う事になりました。発送作業は梱包・宛名ラベル貼りと確認チェック等です。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加も大歓迎です。

次回の製本/発送日 **6月27日(水) 午後10時半頃から**

**宇治修道院信徒会館**

※ご協力いただける方は、製本/発送日をご確認の上、お越しく下さい。

靈性センター事務局 ☎0774-32-7456